

設計課題 「健康づくりのためのスポーツ施設」

I. 設計条件

この課題は、中核都市の市街地において、健康増進のためのエクササイズ等を行う温水プールのある建築物を計画するものである。本施設は、教育機関・医療機関とも連携し、スポーツ・レクリエーション等による効果的な健康増進プログラムを検討することで、高齢者、身障者等を含むすべての地域住民が、ライフステージに応じたスポーツ活動を通じて、健康の維持・増進を図るための活動拠点とする。

- なお、計画については、次の点に留意して適切に計画する。
- ① パッシブデザインを積極的に取り入れ、省エネルギーに配慮した計画とする。
 - ② 温水プール室の空調設備は、単一ダクト方式とする。
 - ③ 給湯設備は、熱源機器と貯湯槽からなる中央給湯方式とする。

1. 敷地及び周辺条件

- (1) 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。なお、敷地は、駅から約200mのところまに位置している。
- (2) 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- (3) 敷地は、近隣商業地域及び防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は90%(特定行政庁が指定した角地における加算を含む。)、容積率の限度は400%である。
- (4) 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- (5) 地盤は良好である。なお、支持地盤はGL-1.2mとし、支持地盤以深の圧密沈下及び液状化の可能性はなく、杭打ちの必要もない。
- (6) 気候は温暖で、積雪についての特別な配慮はしなくてよい。なお、風環境は、夏期は南からの卓越風、中間期は北からの卓越風がある地域とする。

2. 建築物

- (1) 構造、階数等
構造種別は自由とし、地上3階建ての1棟の建築物とする。
- (2) 床面積の合計
床面積の合計は、2,700㎡以上、3,200㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段等は、床面積に算入しないものとする。
- (3) 要求室
下表の室は、全て計画する。

部門	室名	特記事項	床面積	
・スポーツ部門は有料とし、料金の徴収は事務室受付で行うものとする。				
スポーツ部門	プール室	・地上2階に設ける。 ・プールは、長さ20m、幅8m、最深1.1mとし、車いす使用者に配慮したスロープを計画する。 ・採暖室をプールサイドに設ける。 ・天井を張るものとし天井高は、6m以上とする。 ・監視員室及び備品庫を計画する。	適宜	
	トレーニングルーム	・各種運動器具を利用して、トレーニングを行う。 ・天井を張るものとする。	約150㎡	
	トレーニングルーム用器具庫	・トレーニングルームに隣接して設ける。	約20㎡	
	スタジオ(1)(2)	・2室(約80㎡/1室)を設け、ダンスやヨガ等を行う。 ・壁の一面に鏡を設ける。	計約160㎡	
	更衣室	・男性用、女性用として2室(約125㎡/1室)を設け、それぞれに、車いす使用者用更衣室1室を計画する。 ・ロッカー、洗面台、シャワー、サウナ、便所を設け、車いす使用者用更衣室には、洗面台、シャワー、便器を設ける。 ・プール室、トレーニングルーム及びスタジオ(1)(2)の利用者が使用する。 ・入室は、入退室ゲートシステムとする。	約250㎡	
	スポーツマッサージ室		約50㎡	
	観覧ギャラリー	・施設利用者がプールを観覧できるようにする。	適宜	
	休憩ラウンジ	・利用者の休憩、交流、待合せの場として、明るく開放的な空間とする。	適宜	
	健康増進部門	体力測定室		約50㎡
		セミナー室	・スポーツ・健康に関する講習や講演等に利用する。 ・収納(約15㎡)を設ける。	約100㎡
健康相談室		・スポーツや健康に関する相談や助言を行う。	適宜	
共用・管理部門	エントランスホール	・風除室を設ける。 ・1階から3階の空間の連続性を考慮した明るく開放的な吹抜け(40㎡以上)を設け、梁は設けない構造計画とする。 ・スポーツ情報コーナー及びラウンジを設ける。	適宜	
	カフェ	・40人程度が利用できるようにする。 ・カウンター厨房、テーブル、椅子等を設ける。 ・外部からも直接利用できるものとする。	適宜	
	プロショップ	・スポーツ用具の販売を行う。	約30㎡	
	事務室	・施設長と5人の事務員が使用する。 ・施設長室及び職員の更衣スペースを設ける。 ・スポーツ部門の料金徴収ができる受付を設ける。	適宜	
	医務室		約20㎡	
	会議室	・8名程度でミーティングができるようにする。	適宜	
	プール指導員更衣・休憩室	・男性用、女性用として2室を設ける。	適宜	
	指導員控室	・トレーニングルーム及びスタジオ指導員の控室として利用する。 ・休憩スペース及び男性用、女性用の更衣スペースを設ける。	30㎡以上	
	設備スペース	機械室	・採用した設備計画に応じて、設備機械室(給排水衛生、給湯設備、浄化設備、消火設備等)、屋外機器置場等を計画する。	約200㎡
		電気室・空調機械室	・採用した設備計画に応じて、「機械室」又は「設備スペース」を屋内又は屋外に計画する。	適宜
・便所、従業員等の出入口、倉庫(備品庫等を含む)及びゴミ置場については、適切に計画する。 ・その他必要と思われる室、什器等は、適宜計画する。				

3. 屋外施設等

- (1) カフェの屋外にカフェテラス(40㎡以上)を設ける。
- (2) 敷地内の駐車場は、地上に平面駐車とし、車椅子使用者用として1台分、サービス用として2台分(計3台分)のスペースを設ける。なお、利用者・職員等の駐車場は、東側の公立美術館の駐車場を利用するものとし考慮しなくてもよい。
- (3) 敷地内の駐輪場は、利用者用として30台分を設ける。
- (4) (1)~(3)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

II. 要求図書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。なお、各図面には、建築計画、構造計画及び設備計画において留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図・配置図 1/200	① 各平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(スパン割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名等 ハ. 要求室の床面積 ニ. 設備シャフト[パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)]、煙突の位置 ホ. 設備計画に応じた設備スペース ヘ. 外壁の開口部で延焼のおそれのある部分の位置(点線で図示する) ト. 断面図の切断位置 チ. 要求室の特記事項に記載されている室、スペース、什器等
(2) 2階平面図 1/200	② 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 駐車場及び駐輪場(台数及び出入口を明示する。) ハ. カフェテラスの面積、テーブル及びいす ニ. 通路、植栽等
(3) 3階平面図 1/200	③ 2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から2つの直通階段に至る歩行経路、それらの距離及び重複区間の距離 ロ. 1階の屋根、ひさし等となる部分 ④ 3階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から2つの直通階段に至る歩行経路、それらの距離及び重複区間の距離 ロ. 2階の屋根、ひさし等となる部分
(4) 断面図 1/200	① 切断位置は、プール室を含み、建築物の立体構成(1~3階)及び屋根形状がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。 ③ 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高並びに1階床高及び主要な室名を記入する。 ④ 基礎、壁、梁及びスラブの断面を図示する。

2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)

地上1~3階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3. 計画の要点等(答案用紙Ⅱに記入)

- (1) 建築計画について、次の①~④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - ① 各階の平面計画及び動線計画において考慮したこと
 - ② バリアフリーにおいて配慮したこと
 - ③ 施設のセキュリティ管理において配慮したこと
 - ④ パッシブデザインを取り入れ、自然採光の促進、日射遮蔽及び空調エネルギーの削減について工夫したこと(断面図等において補足してもよい)
- (2) 構造計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - ① 建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパン割りとこれらを採用した理由
 - ② 「地盤条件(G L -1.2m以深はN値=40以上の洪積砂礫層であり、地下水位はG L -2.0m以深である。)」及び「経済性」を踏まえて、採用した基礎構造の形式(べた基礎、布基礎、独立基礎)について考慮したこと
- (3) 設備計画について、次の①~③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - ① 受変電設備の設置位置について、特に考慮したこと
 - ② プール室に採用した空調方式、採用した理由及び空調設備の設置位置について配慮したこと
 - ③ 建築物に採用した給水方式と採用した理由

